

たかねやま

多治見市立根本小学校
令和5年11月30日
No.9

～根本小学校の挑戦

校長 横山 美智代

11月9日（木）多治見市教育委員会指定 研究発表会～

11月9日（木）、令和4・5年度多治見市教育委員会指定の研究発表会を根本小学校で行いました。指定を受けて2年間にわたり研究を重ねてきましたが、200人を超える多くの方に来校していただき、授業の様子（各学年1学級の算数の授業と自主学習の公開）を見て、お褒めの言葉をたくさんいただきました。

根本小学校では、以前より次のような課題がありました。

- ・授業中に問題がわからなくて黙って座っている子供たちが、自ら学ぶことができるようにするにはどうしたらよいのか。
- ・あともう少しで課題を解決できそうな子供たちが、あきらめることなくやってみようと思える授業にするにはどうしたらよいのか。
- ・さらに、算数の授業が「できた、わかった、楽しい」と答える子供たちを増やしていくにはどうしたらよいのか。

このことを考えるために「個別最適な学び（児童一人一人の個性に合わせて学びを深めること）」と「協働的な学び（他者と意見や考えを交わし、思考を深めること）」の在り方を研究として進めてきました。実際に一人一人の個性が尊重され、安心して何でも言い合える授業をつくることは、学ぶ楽しさを味わう子どもたちを育てることにつながりました。さらに、子供たちの可能性を引き出す指導にもつながるものがあると感じはじめています。

この日の研究発表会に向けて、子供たちが「今日の授業は根本小学校の私たち（児童）にとって大きなチャレンジの日です。」と話してくれました。まさしく、根本小学校の児童と教職員の全員にとって「挑戦」（チャレンジ）の日でした。



～11月18日（土）授業参観・家庭教育学級

いのちの授業『「性と生を考える」伝えたいあなたの体と心の話』～



11月18日（土）は、親子登下校、授業参観、家庭教育学級を行いました。

家庭教育学級では助産師の宮口様を講師に招き、「性と生を考える」という内容で45分間の講話をしていただきました。5・6年生の児童約150人と300人近い保護者が体育館に集まり、思春期の性と心の変化、そしてかけがえのない命の大切さについて講話をしていただきました。保護者からは、「家庭では話しにくい内容を、子供と親、そして男女で聞くことができる貴重な機会だった」「性について、当たり前のこととして話していただけた」「家庭でも、続きを話してみたい」「定期的に開催してほしい」と、大変好評でした。子供たちの「性」と「いのち」を守っていくために、当たり前のこととして大人が伝えていかなければならない大切な内容でした。